

岩手：4校の父母とともに県向け請願署名を県議会へ提出

岩手県では、12月3日(火)に県向け請願署名を県議会へ提出しました。県内4校のPTA役員が提出に同席し、私学の学費負担の改善を訴えました。この提出の様子は翌日の地元紙にも掲載されました。

12/3(火)岩手県議会請願 66,649筆を議長に提出!



左:関根議長に要請する参加者

下:議長に請願書を手渡す小野寺一関修紅高校PTA会長



12月3日(火)、岩手県内私立高校教職員、盛岡誠桜・水沢第一・一関修紅・一関学院のPTA役員、すすめる会関係者など13名が参加し、関根敏伸岩手県議会議長へ署名を提出し、私学助成の一層の拡充を要請しました。

直前まで5万筆にさえ届かないのでは…と危惧される状況でしたが、最終版での各校のさまざまな工夫と取り組みによって、**6年連続6万筆超の署名を提出**することができました。

今年度紹介議員を引き受けて頂いた方は1名減の3名(共産党・社民党・無所属)でしたが、「希望いわて」のからは「昨年同様、会派として紹介議員にはなれないが、請願には賛成する」との回答をいただいています。一方、「いわて県民クラブ」からは、「経常費助成増額」「2005年度の特色教育補助額に近づけるように増額」という請願項目について難色を示されました。公立高校が統廃合しているのに私学だけ補助金を増額することはおかしいのではないか、という考えのようですが、これは、「岩手県の私立高校生に対する補助金(運営費)がまだ公立高校の3分の1にしか過ぎない」こと、他県と比べて県単独減免制度の補助が「授業料に限定され、さらにその対象が350万未満世帯に限定されていること」と立ち遅れている現状を、多くの議員が理解されていないことの表れです。改めて、議員の皆さんに私学の実情を丁寧に説明し訴え続けることが必要であることを感じました。

署名提出の際には、山積みされた署名用紙を見て、関根議長から「これだけの数に勢い、県民の思いを感じます。」との発言がありました。

私学助成拡充 求め請願

岩手の会

県内私立学校の教職員や保護者らで構成する私学助成をすすめる岩手の会(土屋直人会長)は3日、「私学助成を拡充させ、教育費負担の公私間格差をなくし、子どもたちにゆきとどいた教育を求める請願書」を県議会に提出した。

請願内容は▽私立学校に対する運営費補助の増額▽授業料減免補助および入学金減免補助の対象拡充▽県の私立高校授業料等減免補助の拡充▽私立学校冷房設備に対する補助制度拡充など7項目。
PTA役員や教職員らが県議会を訪ね、6万6649人分の署名を添え、関根

敏伸議長に請願書を手渡した。

このほか同日は、県私学協会(小田島順造会長)などが私立学校に対する経常費助成等の補助の拡充強化および過疎特別助成の継続などを求める「私学助成の充実強化等に関する請願、いわて労連などが「内閣総理大臣主催『桜を見る会』疑惑の徹底究明を求める請願」を県議会に提出した。

2019年12月4日 岩手日日新聞